

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	浅口市立寄島小学校
授業者	山本 裕也 中塚 菜々子

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

「とび出せ！より島の海へ」

#### 1-2. 学年

3 学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

**【より島のカキを知ろう】**  
児童の「寄島といえば、やっぱり海」という発言を発端とし、青佐鼻海岸に行ったり、カキの種つけの見学に行ったりする。「海に親しむ」ことで海に携わる人々にも接することになり、海と人々の関わりについて意識できるようになると考える。

5月にカキの種つけを見学することで、「どのようにカキは大きくなるのだろうか」「台風の時、カキ筏はどうなるのか」などの疑問が児童には自然とわいてくると思われる。その意欲をもとに活動を次へとつなげていきたい。

**【より島のカキを調べよう】**  
「大きなカキ筏が沖に出されるのを見てみたい」「小さかったカキの赤ちゃんはどうなっているのだろうか」という児童の思いから、10月には「カキ筏の沖出し」を見学する。

台風によって沖出しの時期が変わることや漁協組合みんなで沖出しをしていることを学び、カキの成長だけでなく、人々は自然と共に生きていることや人々が協力し合ってカキを育てていることなども児童が気付くことができるようにしたい。

「食べられるようになったカキを見てみたい」「成長したカキはどうなるのだろうか」という児童の思いを大切にして、11月には「カキうち」の見学をする。

**【より島のカキのひみつを伝えよう】**  
児童には、カキの見学に行くことで、たくさんの感動体験をさせたいと考えている。（「海に親しむ」）また、寄島のカキが大きくなるまでの工夫やひみつを知ったり、寄島で美味しいカキが獲れる理由を図書で調べたりする。（「海を知る」）児童は、そのことを保護者・地域の人、又は寄島小学校のみんなに伝えたいと思うであろう。

そこで、児童が見学する「カキの種つけ」「カキ筏の沖出し」「カキうち」の3つのグループを作り、まとめを行っていく。体験したことや収集した情報をまとめたり伝えたりすることは、自らの学びを意味付けたり価値付けたりすることになり、寄島に対する誇りと愛情がさらに深まると考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

「海に親しむ」活動を取り入れ、海と関わって楽しいという思いをもったり、海に携わる人々と接したりする。そして、「海を知る」ことを通して、寄島に対する誇りと愛情をもち、地域社会の一員としての自覚を養いたいと考えた。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ 寄島の代表的な産業であるカキの養殖について調べることを通して、寄島の魅力や海の魅力理解することができる。 **【探求活動を通して身につけた知識・技能】**
- ・ カキの養殖の様子やそれを支える人々の努力・苦労など調べたことを基に、寄島の魅力や海の魅力について、工夫して表現することができる。 **【探求活動における思考・判断・表現】**
- ・ カキの養殖を中心に寄島の魅力や海の魅力について、進んで人と関わりながら調べることができる。 **【人と関わりながら学習活動に取り組む態度】**

1-7. 単元の展開（全46時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ~ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄島のいい所見つけをする。 ※寄島の位置や地形、土地利用を学習後（社会科）</li> <li>・ 青佐鼻海岸の散策に行く。 貝殻拾い・砂遊び・ビーチフラッグ・ゴミ拾い ※事後に振り返りをする。</li> <li>・ カキの種つけの学習をする。 ※質問事項を考える。</li> <li>・ カキの種つけの見学に行く。 ※事後に振り返りをする。</li> </ul>	<p>ノート 発表 消防署・図書館・サンパレア・三ツ山・海 カキ・海鮮市場・B&amp;G・寄島漁協 行動観察 ワークシート</p> <p>発表・ノート</p> <p>行動観察 ワークシート</p>
11 ~ 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カキ筏の沖出しについて学習する。</li> <li>・ カキ筏の沖出しの見学に行く。 ※事前に、質問事項を考える。</li> <li>・ 振り返りをする。</li> <li>・ カキの水揚げについて学習する。 寄島のカキの水揚げについて（新聞） 水揚げの様子について（図書・インターネット）</li> </ul>	<p>発表</p> <p>行動観察 ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>発表 ノート</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カキうちについて学習する。 ※質問事項を考える。</li> <li>・カキうちの見学に行く。 ※事後に振り返りをする。</li> <li>・寄島のカキについて、図書を使って調べる。 寄島でカキが育てられる理由について カキが大きくなる様子について カキを育てる工夫について カキの出荷について 等</li> </ul>	<p>発表 ノート</p> <p>行動観察 ワークシート</p> <p>ノート</p>
<p>26 ~ 46</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄島のカキのまとめ方について見通しをもつ。 誰に、いつ、どのように伝えるか グループ分けをどのようにするか</li> <li>・グループ分けをし、伝えることを話し合う。 ※種つけ・沖出し・カキうちのグループ</li> <li>・グループごとにポスターを作る。</li> <li>・グループごとに伝え方を考えて、作成・練習する。 紙芝居・クイズ・実物に似せた物を作る 等 友達同士見せ合い、よりよいものにする。</li> <li>・「よりしま学」の発表に向けて招待状を書く。 家の人、寄島漁協の人</li> <li>・「よりしま学」の発表をする。</li> <li>・単元全体の振り返りをする。</li> </ul>	<p>発表</p> <p>行動観察</p> <p>ポスター</p> <p>行動観察 作品 発表</p> <p>行動観察</p> <p>発表</p> <p>ワークシート</p>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

カキ筏の沖出しの見学において気付いたことや思ったことを発表し合い、寄島のたくさんの人たちの努力や工夫によって、効率よく安全においしいカキを育てていることを理解することができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カキ筏の沖出し」の写真を提示して、前時の学習（見学）を想起させ、本時のめあてにつなぐ。</li> </ul>
2 沖出しの見学で気付いたことを考え、発表し合う。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">おきだしの見学で気付いたことを発表し合い、くふうについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時は特に、「学びの姿」の、「前向きさ：協力」を發揮して学んでいくことを伝える。</li> <li>・各自で、気付いたことや思ったことを付箋に書き出していく。戸惑っている児童には、見学のしおりにメモしたことを参考にするように助言をする。</li> <li>・各班で、書き出した付箋を学びボードの上に貼りながら、気付いたことや思ったことを紹介し合った後、似ている意見はないかと問い掛け、仲間に分けていくように指示をする。そのことにより、それらの共通点を考え、沖出しの工夫に着目できるようにする。</li> </ul>
	<p>「おいしいカキを育てる工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖に出すことで、栄養がたっぷりのカキになる。</li> <li>・カキがおいしくなる。</li> </ul> <p>「効率よく安全に作業する工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな船 2 隻で移動させている。</li> <li>・台風が来ないときに、筏を移動させている。</li> <li>・人がたくさんいる。</li> <li>・協力して作業をしている。</li> </ul>

3 沖出しの工夫について考える。

・各班で出た意見を全体で発表し合って共有し、仲間に分けて板書に位置付けていく。

・板書を概観して、見学してたくさんの気づきがあったことをまず称揚する。その上で、それらが「おいしいカキを育てる工夫」「効率よく安全に作業する工夫」の大きく2点に関わることを確かめられるようにする。

・写真を示しながら、「こんなに大変な作業だから、沖出しをしなくてもいいのではないかな」、「大変だから日にちをそろえず、沖出しをしたほうがいいのではないかな」と問いかける。それによって、2つの工夫について考えを深められるようにする。その際、次の2点に留意する。

☆班での話合いを適宜取り入れる。おいしいカキを食べるお客さんと漁師さんの絵や写真を掲示して、関連付ける。

☆寄島漁協のホームページを提示し、岡山カキは、全国第3位の生産量を誇り、中でも「寄島かき」は、沖出しをすることで、濃厚でクリーミーな味わいとプロの料理人も絶賛するほどの質になるということを紹介する。

・おいしいカキを食べるお客さんとそのカキをつくる漁師さんを結びつけ、学びを深めていく。

・おいしいカキをつくることは大変だから、力を合わせて作業をする。

・お客さんは寄島のカキに満足している。

・寄島のカキの価値が上がる。

・漁師さんは、喜んでもらえるとうれしい。

・本時の学びを発表することにより、児童の言葉を基にまとめを行う。

5 本時のまとめをする。

みんなできょう力しておきだしをすることで、おいしいカキをこうりつよく安全に作って、お客さんに喜んでもらえる。

○分かったことや考えたこととともに、「学びの姿」カードに照らして、自分の学びを振り返ることができるようにする。

### 3. 今回の活動の自己評価

- ・実際にカキの養殖の様子を見学したり、地域の方の話の聞いたり、質問したりすることは、非常によい学習となった。寄島の海の魅力や、それを生かしている地域の方々の努力やすばらしさを実感することができた。中でも寄島の栄養豊富な海で育てたカキは、プロの料理人が絶賛するほど、濃厚でクリーミーな味になることを知った児童は大変驚き、寄島のカキを、さらには、ふるさと寄島そのものを自慢に思った。このようにして、寄島町は海に面していることが特徴であることを再認識し、海と食、海と仕事など、海と人々の生き方の深い関わりについて考えることができた。
- ・各教科でも、よりしま学と関連させて学習を進めてきた。特に、社会科の身近な地域の様子において、寄島の位置や地形を学び、実際に学校周辺にはどんなものがあるかを探索することで、身近に海があることを意識付けるきっかけとなった。また、寄島漁業協同組合や海の幸を扱う店が多くあることを知り、海と人々の生活に関係があることにも気付くことができた。
- ・本時では、まなボードを使い、前時の見学で気付いたことを仲間分けしていった。その共通点を考えることを通して、カキ筏の沖出しはたくさんの方々の努力や工夫によって行われていることについて考えを深めることができた。

### 4. 今後の課題

- ・カキの成長に合わせて、繰り返し見学を行ったことは有効であったが、事前学習で目的を一層明確にしておくことが必要だった。
- ・本時では、「まなボード」を使ってグループごとに気付いたことを書いて発表を行ったが、お互いの考えを共有するとき、やや分かりにくかった。実物投影機や ICT 機器を活用して、各班の意見を大きく、また比較しやすくすると、さらに考えが深まったと考える。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

海上及び海の付近での活動になるので、安全にはくれぐれも気を付ける。。